

# 2007年3月期(第36期) 第3四半期決算説明会

2007年2月27日

エヌアイシ・オートテック株式会社

代表取締役社長 西川浩司

<http://www.nic-inc.co.jp/>

**JASDAQ**

証券コード:5742

# 目次



I.	2007年3月期	第3四半期決算の概要	P 3 ~ P 17
II.	2007年3月期	通期業績予想	P 18 ~ P 26
III.	2008年3月期	通期業績予想	P 26 ~ P 29
IV.	今後の施策		P 30 ~ P 35
V.	会社概況		P 36 ~ P 46

---

# I. 2007年3月期 第3四半期決算の概要

---

---

# 第3四半期業績(要約財務諸表)

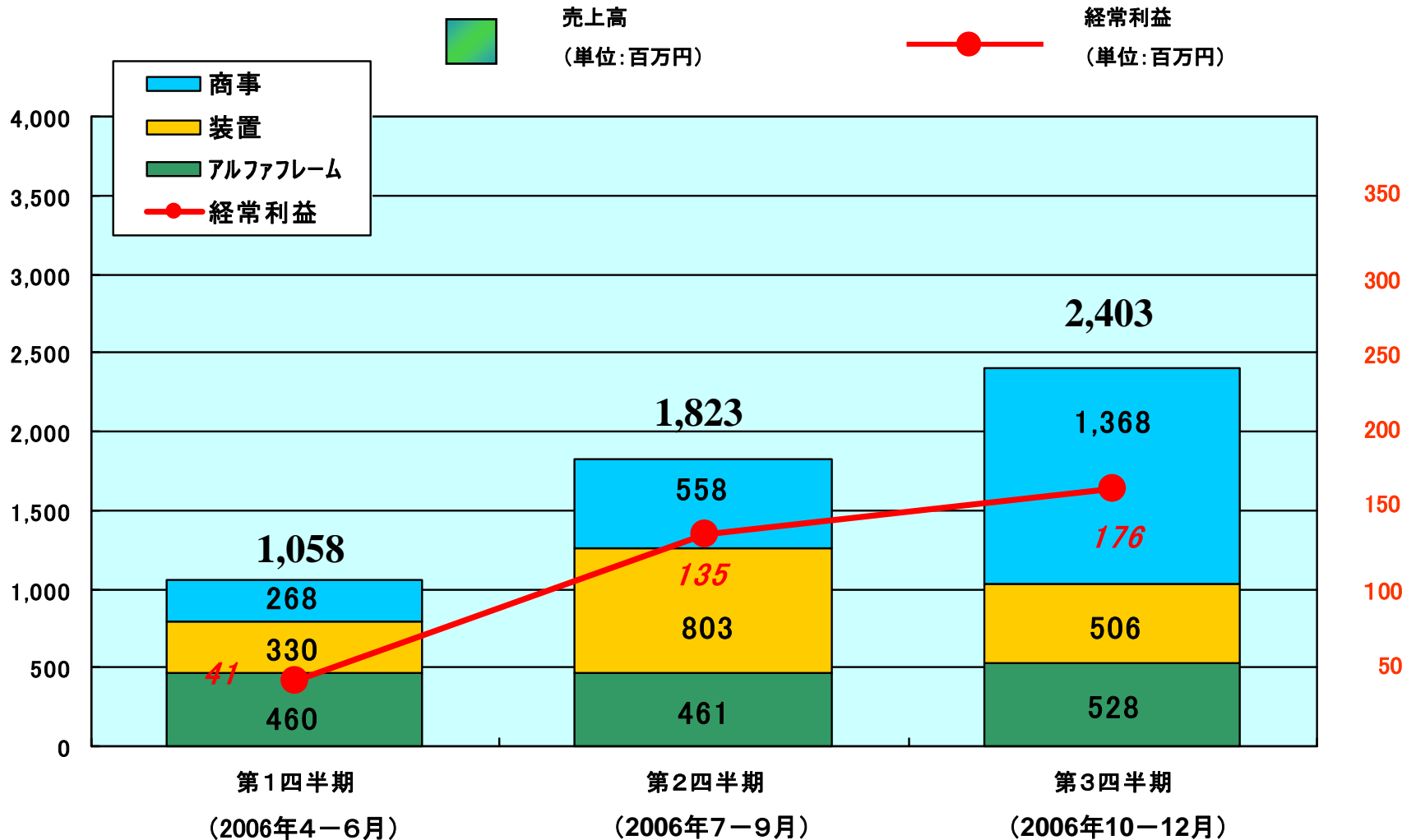


(単位:百万円)

	第36期 3Q (2006年4-12月)	第34期 (2005年3月期)	第35期 (2006年3月期)	第36期 (2007年3月期)
売上高	5,285	5,757	4,730	6,860
売上総利益	1,050	1,250	1,276	1,360
営業利益	345	302	358	402
経常利益	339	302	370	400
経常利益率	6.4%	5.3%	7.8%	5.8%
純利益(当期・四半期)	188	157	221	231
純資産額	2,682	2,048	2,285	—
総資産	5,335	4,294	3,977	—
株主資本比率	50.3%	47.7%	57.4%	—
ROE	7.6%	7.9%	10.2%	—
ROA	7.4%	7.6%	8.7%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

# 四半期売上高及び経常利益の推移



# 第3四半期決算概要(P/L) 計画対比

(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当第3四半期計画 (2006年12月期)		計画比	今期計画(参考) (2007年3月期予想)		達成率
	金額	比率	金額	比率		金額	比率	
売上高	5,285	100%	4,961	100%	107%	6,860	100%	77%
売上総利益	1,050	20%	1,073	22%	98%	1,360	20%	77%
営業利益	345	7%	293	6%	118%	402	6%	86%
経常利益	339	6%	286	6%	118%	400	6%	85%
四半期(当期)純利益	188	4%	171	3%	110%	231	3%	82%

- 売上高 …………… 好調な半導体関連及び自動車関連業界からの継続的受注により増収
- 売上総利益 …………… 原材料価格の高騰による売上原価の増加により減益
- 営業利益 …………… 上場費用で販売管理費10百円増だが、売上高伸長及び経費削減がこれを吸収して増益
- 経常利益 …………… 売上高の伸長による増益
- 四半期(当期)純利益 …… 増益等による法人税等の増加による増益

# 品目別第3四半期売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当第3四半期計画 (2006年12月期)		計画比	前年実績(参考) (2005年12月期)		前年比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
アルファフレーム	686	47%	751	51%	91%	683	52%	100%
補助部品	617	43%	574	39%	108%	511	39%	121%
その他	145	10%	147	10%	99%	111	9%	131%

- アルファフレーム …… 計画未達であるが、当社の特徴である技術力を活かしたアルミ構造材の普及並びに提案営業の強化を開始し、前年並み
- 補助部品 …… フレームを結合するブラケット等の補助部品の売上は、計画比及び前年比も増加して堅調に推移
- その他 …… その他は、「顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加」及び「納期短縮化に伴う加工及び組立の増加」傾向に伴う売上が中心で、計画未達であるが、前年比が増加して堅調に推移

# 販売先別第3四半期売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当第3四半期計画 (2006年12月期)		計画比	前年実績(参考) (2005年12月期)		前年比
	売上高	計画比	売上高	計画比		売上高	計画比	
代理店販売	1,255	87%	1,296	88%	97%	1,198	92%	105%
直接販売	195	13%	176	12%	111%	107	8%	181%

- 代理店販売 …… 計画未達であるが、代理店営業マンの商品知識とモチベーション向上のため、定期的な勉強会の開催や分かりやすいカタログの作成を通じて前年比で堅調に推移
- 直接販売 …… 個別強度解析等の支援を必要とする大口ユーザーに対して直接サポートが可能な直接販売体制の整備を行っており、構成比、計画比並びに前年比ともに増加して好調に推移



# 品目別第3四半期売上高(装置部門)

(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当第3四半期計画 (2006年12月期)		計画比	前年実績(参考) (2005年12月期)		前年比
洗 浄 装 置	63	4%	161	12%	39%	197	19%	32%
検 査 装 置	46	3%	214	15%	22%	72	7%	65%
搬送・梱包装置	622	38%	179	13%	347%	19	2%	3249%
クリーンブース	426	26%	507	37%	84%	343	33%	124%
アルミ構造物	129	8%	101	7%	128%	129	12%	100%
そ の 他	351	21%	225	16%	156%	278	27%	126%

- 洗浄装置 …… 計画未達であるが、汎用性の高い中型機を中心に堅調に推移
- 検査装置 …… 計画未達であるが、新規開発の洗浄機+検査機一体装置は堅調に推移
- 搬送・梱包装置 …… 光ディスク製造装置等の継続的な大口受注により大幅伸長
- クリーンブース …… FPD製造設備用計画が遅れ計画未達であるが、カスタムクリーンブース市場は拡大傾向
- アルミ構造物 …… カスタム仕様マシンカバー等のクリーン設備関係を中心に堅調
- その他 …… クリーン関連部品(FFU、パネル等)及び顧客専用の型材製品も堅調

# 販売先別第3四半期売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当第3四半期計画 (2006年12月期)		計画比	前年実績(参考) (2005年12月期)		前年比
	売上高	計画比	売上高	計画比		売上高	計画比	
自動車部品	162	10%	453	33%	36%	293	28%	55%
家電関係	654	40%	143	10%	455%	58	6%	1122%
弱電関係	26	2%	32	2%	83%	11	1%	242%
機械関係	723	44%	659	47%	110%	573	55%	126%
食品関係	0	0%	8	1%	11%	11	1%	8%
薬品関係	5	0%	16	1%	32%	3	0%	151%
その他	66	4%	77	6%	85%	88	8%	75%

- 自動車部品 … 大型洗浄 & 計測機の売上の一服するも、中型洗浄機の売上は堅調に推移
- 家電関係 …… 光ディスク製造装置等の継続的な大口受注により大幅伸長
- 弱電関係 …… 製造装置用カスタムクリーンブースが堅調に推移
- 機械関係 …… 液晶製造装置設備投資及び工作機械関係の需要が順調に推移

# 品目別第3四半期売上高(商事部門)



(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当第3四半期計画 (2006年12月期)		計画比	前年実績(参考) (2005年12月期)		前年比
	金額	前年比	金額	前年比		金額	前年比	
工業用砥石・油脂類	205	9%	189	9%	109%	203	18%	101%
機械設備	1,434	65%	1,400	67%	102%	454	41%	316%
工具・ツール	455	21%	427	20%	107%	384	34%	119%
その他	99	5%	84	4%	119%	73	7%	135%

- 工業用砥石・油脂類 …… 顧客の生産量拡大に伴い、機械設備に付随する消耗品等が堅調に推移
- 機械設備 …………… 大型機械設備案件や部品組立機等の機械設備投資が堅調に推移
- 工具・ツール …………… 顧客の生産量拡大に伴い、機械設備に付随する工具・ツール等が堅調に推移
- その他 …………… 機械設備修理に伴う売上等により、計画比及び前年比で堅調に推移

# 販売先別第3四半期売上高(商事部門)



(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当第3四半期計画 (2006年12月期)		計画比	前年実績(参考) (2005年12月期)		前年比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
地元大手企業	1,424	65%	1,340	64%	106%	531	48%	268%
その他	770	35%	760	36%	101%	584	52%	132%

- 地元大手企業 … 大型機械設備案件、部品組立機及び消耗品類等が堅調に推移
- その他 …………… 提案営業による既存顧客への囲い込み等により、工具・ツール・消耗品等が堅調

# 第3四半期決算概要(P/L)



(単位:百万円)

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当期計画 (2007年3月期予想)		未達額	達成率	要因
売上高	5,285	100%	6,860	100%	1,574	77%	・依然好調な次世代FPDや自動車部品製造関連企業からの継続的な受注による増加
売上総利益	1,050	20%	1,360	20%	309	77%	・原材料価格高騰を歩留り率向上や部品の海外調達等により粗利益率の低下を抑制
営業利益	345	7%	402	6%	56	86%	・上場経費で販売管理費10百万円増だが、売上高伸長及び経費削減がこれを吸収し増益
経常利益	339	6%	400	6%	60	85%	・売上高の伸長による増益
四半期純利益	188	4%	231	3%	42	82%	・増益による法人税等の増加による増益

	当第3四半期実績 (2006年12月期)		当期計画 (2007年3月期予想)		未達額	達成率	要因
研究開発費	43		57		14	75%	・新規開発及び既存製品改良等のバランスを重視
設備投資額	42		43		0	98%	・既存設備の更新・改修等を中心とする増加 (技術開発センターの設立は翌期へ変更)
減価償却費	47		64		16	74%	・既存設備の償却に伴う減少 (技術開発センターの設立は翌期へ変更)

# 第3四半期決算概要(B/S)



(単位:百万円)

	当第3四半期末 (2006年12月末)	前 期 末 (2006年3月末)	増 減	増 減 内 容
総 資 産	5,335	3,977	1,358	・現金及び預金、受取手形、売掛金の増加
( 棚 卸 資 産 )	635	520	115	・装置部門(FA装置・クリーンブース)の仕掛品等の増加
負 債	2,653	1,747	906	・支払手形、買掛金、退職給付引当金の増加
( 有 利 子 負 債 )	482	753	▲271	・長期借入金、社債等の減少
純 資 産	2,682	2,285	396	・公募増資に伴う資本金及び資本剰余金の増加 ・利益剰余金の増加

# 第3四半期決算概要(キャッシュ・フロー)



(単位:百万円)

	当第3四半期末 (2006年12月期)	前期末実績(ご参考) (2006年3月期)	増減内容
営業活動	284	77	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税引前四半期純利益の増加による資金増加+339</li> <li>・仕入債務の増加による資金増加+994</li> <li>・売上債権の増加による資金減少▲819</li> <li>・たな卸資産の増加による資金減少▲117</li> <li>・法人税等の支払による資金減少▲173</li> </ul>
投資活動	▲33	66	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得による資金減少▲12</li> </ul>
財務活動	170	▲167	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式の発行による資金増加+251</li> <li>・短期借入金の純増減による資金増加+40</li> <li>・長期借入金の返済による資金減少▲63</li> </ul>
現預金残高	588	167	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の各要因による資金増加+588</li> </ul>

# 第3四半期決算概要(受注実績)

(単位:百万円)

	当 第 3 四 半 期 ( 2 0 0 6 年 1 2 月 末 )		前 第 3 四 半 期 ( 2 0 0 5 年 1 2 月 末 )		前 期 比	
	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高
アルファフレーム部門	1,424	34	1,330	62	107%	55%
装 置 部 門	2,048	757	1,027	367	199%	206%
商 事 部 門	2,603	462	1,151	155	226%	298%
合 計	6,077	1,254	3,509	584	173%	215%

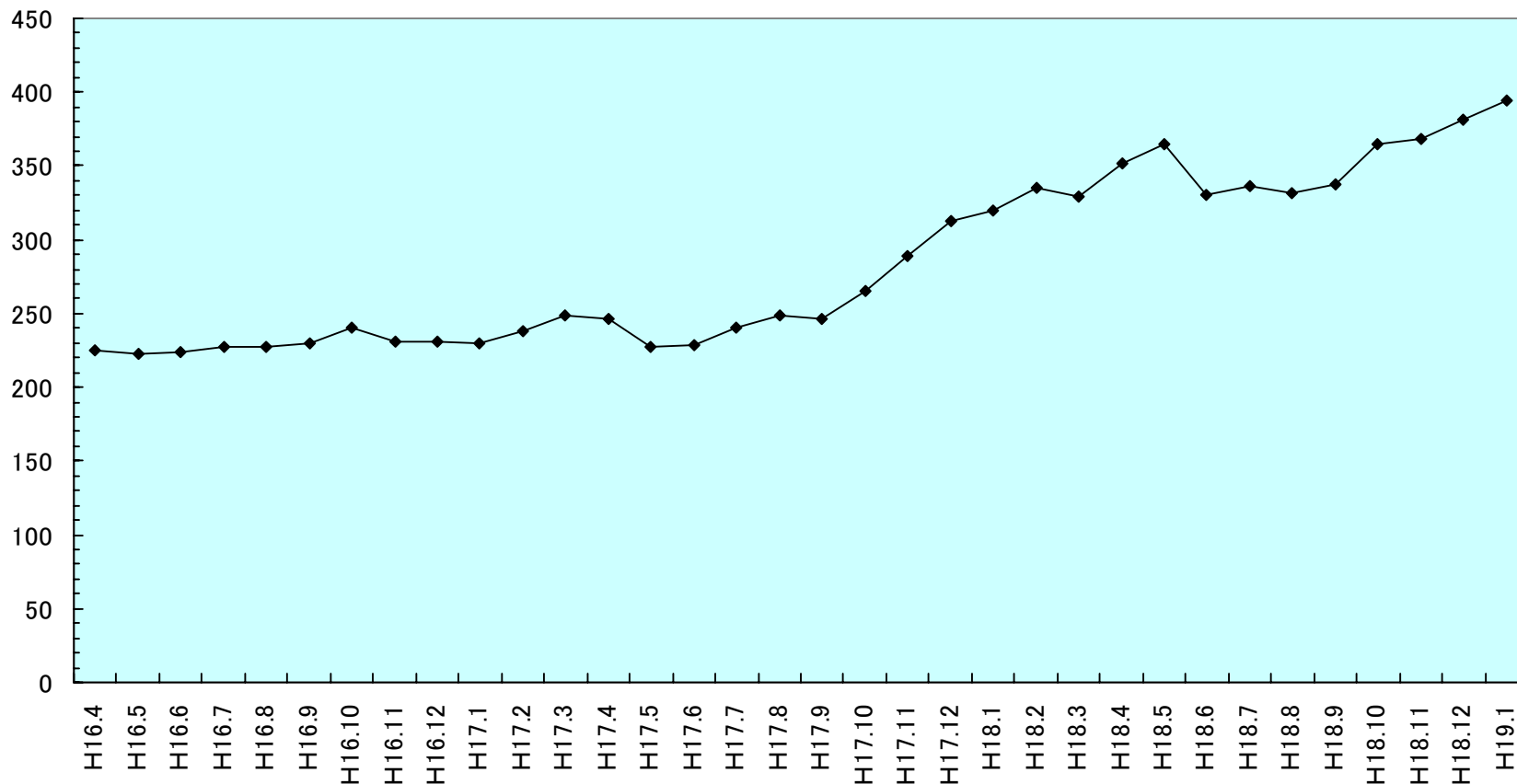
- アルファフレーム部門 … デジタル家電関連業界からの好調な受注、技術力を活用した提案営業活動が堅調
- 装置部門 …… 光ディスク製造関連装置及びカスタムクリーンブース等の継続的な大口受注により大幅伸長
- 商事部門 …… 大型機械設備の受注により大幅伸長



# 第3四半期決算概要(アルミ地金価格推移)



(単位:円/Kg)



※ 日経市況データより

## Ⅱ. 2007年3月期 通期業績予想

---

---

# 業績推移(要約財務諸表)

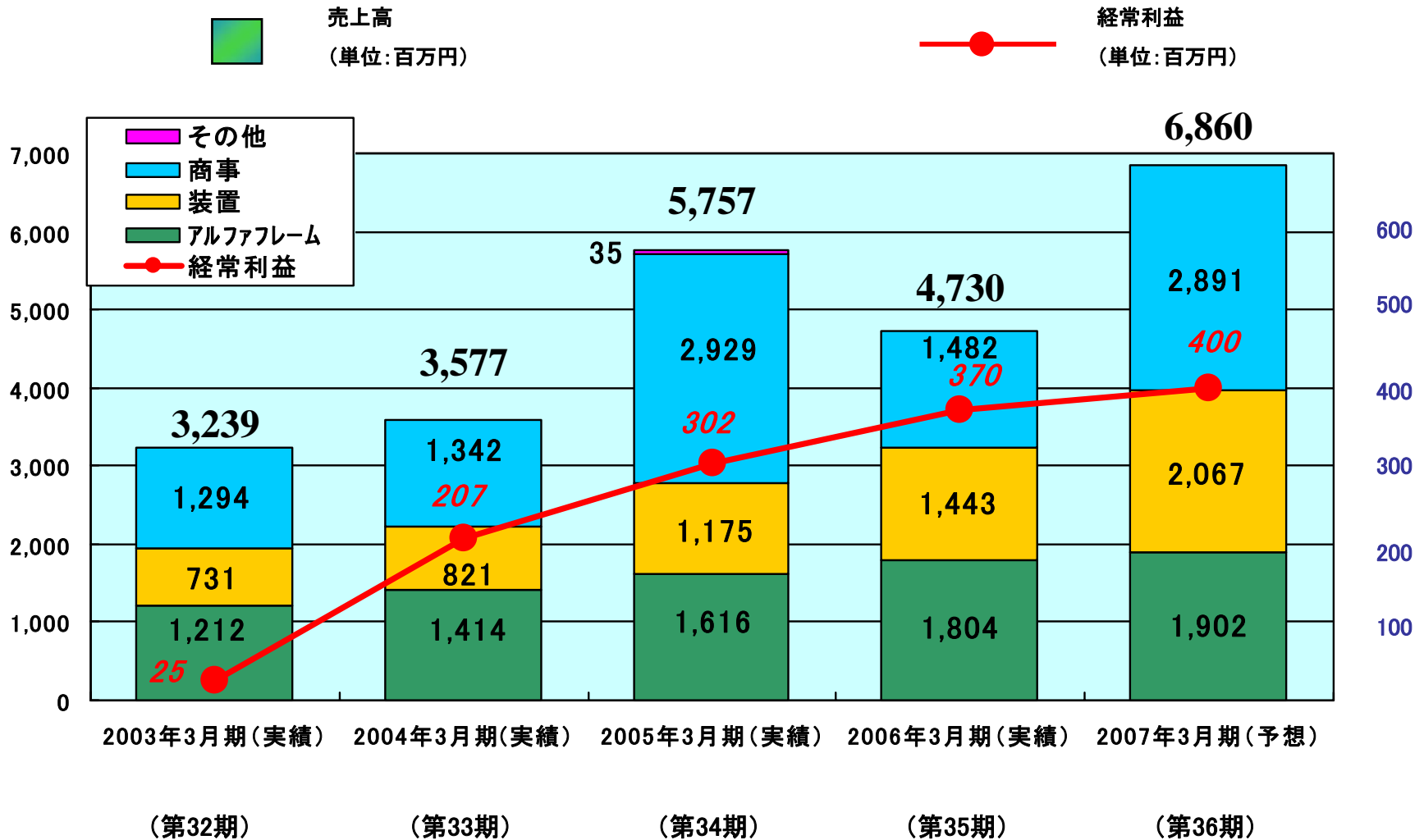


(単位:百万円) <ご参考>

	第31期 2002年3月期	第32期 2003年3月期	第33期 2004年3月期	第34期 2005年3月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期
売上高	1,753	3,239	3,577	5,757	4,730	6,860
売上総利益	—	—	1,029	1,250	1,276	1,360
営業利益	—	—	226	302	358	402
経常利益	27	25	207	302	370	400
経常利益率	1.6%	0.8%	5.8%	5.3%	7.8%	5.8%
当期純利益	13	48	129	157	221	231
株主資本	1,310	1,766	1,912	2,048	2,285	—
総資産	2,613	3,366	3,694	4,294	3,977	—
株主資本比率	50.2%	52.5%	51.7%	47.7%	57.4%	—
ROE	1.1%	2.8%	7.0%	7.9%	10.2%	—
ROA	—	—	6.4	7.6%	8.7%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

# 利益計画(売上高及び経常利益の推移)



# 部門別売上高(アルファフレーム部門) 前期比



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
アルファフレーム	903	47%	943	52%	▲40	96%	・薄型テレビ主軸のデジタル家電関連が堅調 ・当社技術力を活かした提案営業の強化
補助部品	810	43%	706	39%	104	115%	・上記アルファフレームに同じ
その他	189	10%	153	9%	35	123%	・顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加 ・納期短縮化に伴う加工及び組立の増加

販売先別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
代理店販売	1,658	87%	1,655	92%	3	100%	・当社技術力を活かした提案営業の強化 ・各種技術面におけるサポート化
直接販売	244	13%	148	8%	96	165%	・強度解析等による大口ユーザーへの直接サポート(設計支援等)を強化 ・当社ホームページ問合せ及び展示会来訪者に対する組織的フォローの強化

# 品目別売上高(装置部門) 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2007年3月期予想)		前 期 ( 参 考 ) (2006年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
洗 浄 装 置	95	5%	249	17%	▲153	38%	・自動車部品用大型洗浄機の需要は一服 ・標準(小型洗浄機)及び中型洗浄機の需要は堅調
検 査 装 置	98	5%	173	12%	▲74	57%	・自動車部品用大型計測装置の需要は一服 ・小型検査機及び中型検査機の需要は堅調 ・部品洗浄計測装置(新開発)が堅調
搬送・梱包装置	635	31%	44	3%	590	1414%	・光ディスク製造装置等の大口受注で大幅伸長
クリーンブース	565	27%	427	30%	138	132%	・カスタムクリーンブース市場は拡大傾向 ・FPD製造設備用も増収
アルミ構造物	198	10%	191	13%	7	104%	・クリーン対応安全カバー等が堅調
そ の 他	472	23%	358	25%	114	126%	・クリーン関連部品(FFU, パネル等)及びアルファフレーム等の専用型材も堅調

# 販売先別売上高(装置部門) 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2007年3月期予想)		前 期 ( 参 考 ) (2006年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
自動車部品	255	13%	463	32%	▲207	55%	・大型洗浄&計測装置の売上が一服 ・部品洗浄計測装置(新開発)は好調
家電関係	700	34%	109	8%	591	641%	・光ディスク製造装置等の大口受注で大幅伸長 ・上記以外の従来取引先も堅調
弱電関係	26	1%	9	1%	17	287%	・製造装置用カスタムクリーンブースが堅調
機械関係	1,004	48%	772	53%	232	130%	・液晶製造装置設備投資が順調に推移
食品関係	1	0%	0	0%	0	149%	・顧客からの消耗品等の受注が中心
薬品関係	7	0%	4	0%	2	153%	・クリーン設備関連市場は堅調
その他	70	3%	83	6%	▲12	85%	・設備投資関連市場は堅調 ・クリーン設備関連市場は堅調 ・標準品の組立加工等も堅調

# 部門別売上高(商事部門) 前期比



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
工業用砥石・油脂類	268	9%	268	18%	0	100%	・前期同様に機械設備投資が好調に推移 ・工業用砥石等の消耗品は好調な前年並
機械設備	1,915	66%	565	38%	1,349	338%	・地元大手企業の大型設備案件により大幅伸長 ・部品組立機等も堅調に推移
工具・ツール	601	21%	543	37%	57	111%	・設備投資増に伴い付随する工具・ツールも堅調 ・既存客へのフォロー営業強化により堅調
その他	107	4%	104	7%	2	102%	・既存客からの消耗部材のリポートも堅調

販売先別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
地元大手企業	2,003	69%	826	56%	1,177	242%	・大型設備案件により大幅伸長 ・設備投資増に伴い消耗品等も堅調に推移
その他	888	31%	655	44%	233	136%	・既存客からのリポート消耗品等も堅調 ・既存客へのフォロー営業強化により堅調



# 通期業績の概要 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2007年3月期予想)		前 期 ( 参 考 ) (2006年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
売 上 高	6,860	100%	4,730	100%	2,129	145%	・依然好調な次世代FPDや自動車部品製造関連企業からの継続的な受注による増加
売上総利益	1,360	20%	1,276	27%	83	107%	・原材料価格高騰を歩留り率向上や部品の海外調達等により粗利益率の低下を抑制
営 業 利 益	402	6%	358	8%	43	112%	・上場経費で販売管理費10百万円増だが、売上高伸長及び経費削減がこれを吸収し増益
経 常 利 益	400	6%	370	8%	29	108%	・売上高の伸長による増益
当期純利益	231	3%	221	5%	9	104%	・増益による法人税等の増加による増益
設 備 投 資	43	—	15	—	27	283%	・新規開発及び既存製品改良等のバランスを重視
減価償却費	64	—	62	—	1	103%	・既存設備の更新・改修等を中心とする増加 (技術開発センターの設立は翌期へ変更)
研究開発費	57	—	65	—	▲7	88%	・既存設備の償却に伴う減少 (技術開発センターの設立は翌期へ変更)

## Ⅲ. 2008年3月期 通期業績予想

---

---

# 業績推移(要約財務諸表)



(単位:百万円) <ご参考>

	第32期 2003年3月期	第33期 2004年3月期	第34期 2005年3月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期	第37期 2008年3月期
売上高	3,239	3,577	5,757	4,730	6,860	7,100
売上総利益	—	1,029	1,250	1,276	1,360	1,437
営業利益	—	226	302	358	402	405
経常利益	25	207	302	370	400	411
経常利益率	0.8%	5.8%	5.3%	7.8%	5.8%	5.8%
当期純利益	48	129	157	221	231	234
株主資本	1,766	1,912	2,048	2,285	—	—
総資産	3,366	3,694	4,294	3,977	—	—
株主資本比率	52.5%	51.7%	47.7%	57.4%	—	—
ROE	2.8%	7.0%	7.9%	10.2%	—	—
ROA	—	6.4	7.6%	8.7%	—	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

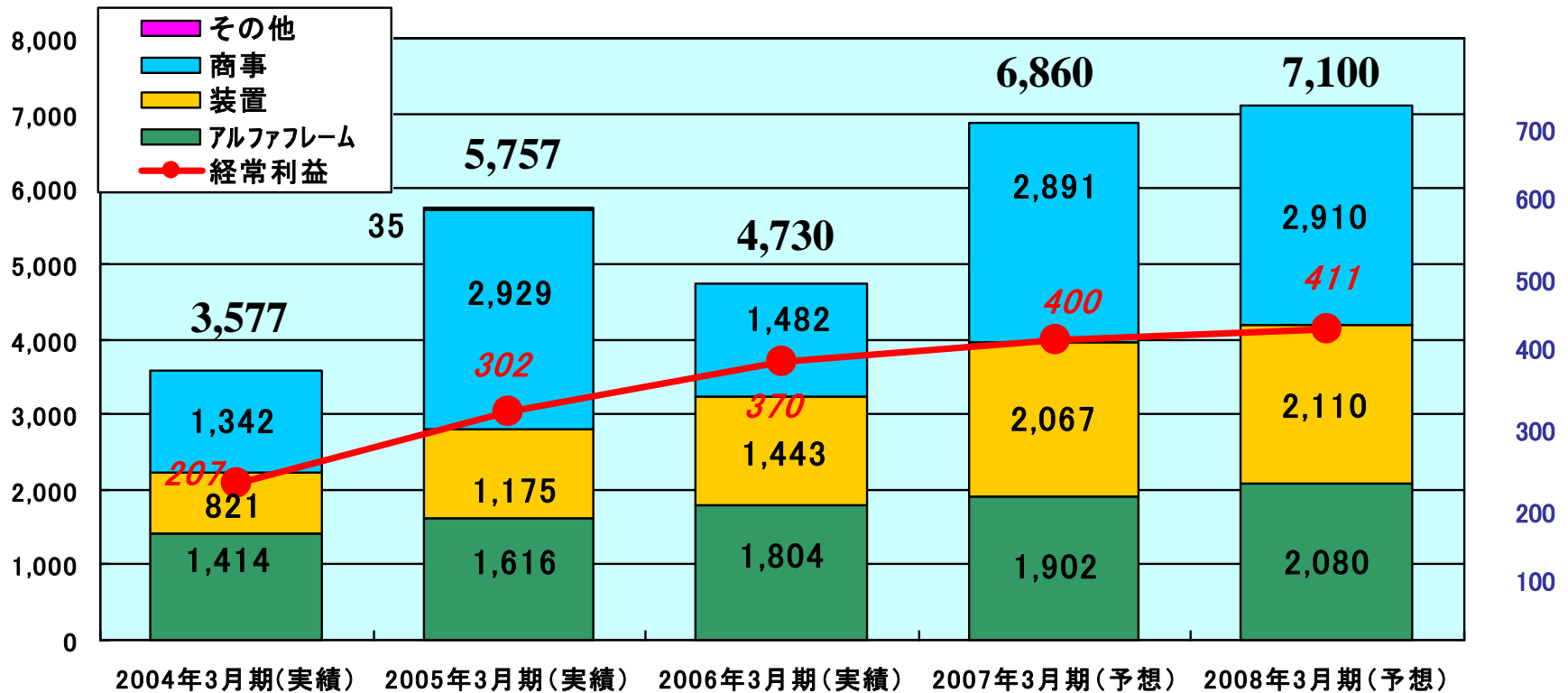
# 利益計画(売上高及び経常利益の推移)



売上高  
(単位:百万円)



経常利益  
(単位:百万円)



(第33期)

(第34期)

(第35期)

(第36期)

(第37期)

# 通期業績の概要 当期比



(単位:百万円)

	翌期計画 (2008年3月期計画)		今期計画 (2007年3月期予想)		増減	当期比	要因
売上高	7,100	100%	6,860	100%	240	103%	・FPD製造装置設備投資は依然好調に推移 ・大型機械設備案件も堅調に推移
売上総利益	1,437	20%	1,360	20%	77	106%	・売上高の伸長による増益
営業利益	405	6%	402	6%	3	101%	・技術開発センター設立による諸経費、内部統制構築に係る費用等が増加するも、売上高伸長及び経費削減がこれを吸収し増益
経常利益	411	6%	400	6%	11	103%	・売上高の伸長による増益
当期純利益	234	3%	231	3%	3	101%	・増益による法人税等の増加による増益
設備投資	197	—	43	—	154	458%	・技術開発センターの設立を中心とする増加
減価償却費	75	—	64	—	11	117%	・主に技術開発センターの設立に伴う増加
研究開発費	86	—	57	—	29	151%	・技術開発センターの設立に伴い、研究開発の充実を図り、FA装置に係る新技術の開発やアルファフレーム、クリーンブースの新製品開発等にて増加

## IV. 今後の施策

---

---

# 当社ビジネスの優位性



## ■ シナジーを活かした総合力

### ■ アルファフレーム部門

ALFA FRAME® SYSTEM の  
シリーズ化

- ・高剛性フレーム
- ・アルファコンベア
- ・アルファレール

### ■ 装置部門

自動・省力化装置、周辺  
機器の研究開発

- ・国内初の半導体工場向け  
ミニエンバイロメント設備受注
- ・標準クリーンブース開発

### ■ 商事部門

輸入・国産工作  
機械取扱い

- ・大型自動車部品ラインの受注

#### ■ 装置製造から生まれた

ALFA FRAME® SYSTEM

#### ■ アルミの特性を活かした機械装置の開発製造

#### ■ 当社製品(ALFA FRAME® SYSTEM)を組み合

わせた洗浄・検査・搬送梱包の各種装置の販売

#### ■ 「メーカー機能」を活用した設備導入提案

1927

1971

1986

## 事業環境

- ◆ 国内外における自動車関連事業の高水準な設備投資
- ◆ FPD業界の技術革新と旺盛な設備投資などエレクトロニクス業界の活況
- ◆ 先端技術の微細化に伴うクリーン関連製品への注目度増大
- ◆ 鉄からアルミへの代替促進などアルミフレーム市場の拡大
- ◆ 人材不足による生産設備の自動化、省力化の更なる進行
- ◆ 企業活動の変革とスピートアップ



# 当社の競争力




## アルファ フレーム 部門

- アルミ構造部材の国内でのパイオニア的存在
- 設計ノウハウを活かした設計支援などの質の高いサービスの提供
- 新製品開発力
- システムとして完成された豊富なフレーム、アクセサリ類製品

## 装置 部門

- 幅広い業界で利用される要素技術の蓄積
- 特定の業界や取引先に過度に依存しない取引構造
- 当社技術力を評価するリーディングカンパニーを固定客に持つ

- 
- 各部門が相互にシナジー効果を活かしつつ、専門的なソリューションを提供する企業
  - 常に新しい独自の技術の開発を促す技術ベンチャーの気風

# 開発の基本方針



## 開発

技術開発センターを設立し開発力をさらに強化

### 3部門のシナジーを活かし、早期商品化を目指した製品開発

- 標準化・汎用化
- アルファフレーム製品、アクセサリ類の改良／開発
- 装置関連技術の開発



標準カップ式洗浄機

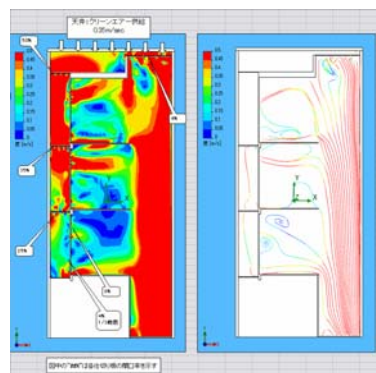
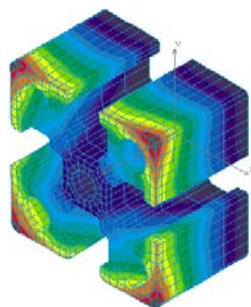


標準クリーンブース

### 安定的・持続的な収益力を高める研究開発

- 新素材等の基礎研究

マグネシウム合金  
樹脂フレーム 等



クリーンストッカーの  
気流解析



## 生産・技術

- 生産能力の増強 → 協力工場の確保
- 他社との提携による技術分野の拡大
- 標準化・汎用化製品ラインアップの充実
- 3部門のシナジー効果を活かした製品開発
- 人材の確保 → 技術力、技術者の確保

## 営業

- 質の高いサービスの提供(短納期、設計支援、ソリューションの提供)
- 販売チャネルの多様化
- 価格競争力の強化
- 専用フレーム開発 → 大口ユーザーの定着

## V. 会社概況

---

---

# 会社の概要

- 会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
- 設立年月日 昭和46年5月17日
- 代表社名 代表取締役社長 西川 浩司
- 本社所在地 富山県富山市清水元町7番8号
- 東京本社 東京都江東区有明三丁目1番25号  
有明フロンティアビルB棟 11階
- 資本金 156,100千円(平成18年9月末日現在)
- 従業員数 164名うち正社員132名(平成18年9月末日現在)
- 事業内容
  - ① アルミ構造材「ALFA FRAME® SYSTEM」の製造販売
  - ② アルファフレームシステムを使用したFA装置、  
クリーンブース、構造物の製造販売
  - ③ 富山県を地盤とした地域密着型工業生産財商社



# 沿革

・来年は創業80年の長い歴史を有する(時代と共に変革)



1920

1960

1970

1980

1990

2000

JASDAQへ新規上場 **2006年6月** ●

ISO9001 (**2004年8月**) 及びISO14001の各認証を取得 **2006年3月** ●

当社を存続会社として(株)クレトを吸収合併 **2002年4月** ●

ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を解散し、同社のクリーン **2001年3月** ●  
関連事業を移管し、クリーンブースの製造・販売を開始

セイコー電子工業(株)、マイスナー・ヴウルスト社と共に **1997年12月** ●  
ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を設立し、クリーン関連事業を開始

東京都千代田区平河町に東京支店(現・東京本社)を開設 **1993年2月** ●

● **1988年5月** アルミ構造材「ALFA FRAME<sup>®</sup> SYSTEM」を商品化し、  
アルファフレームの製造及び販売を開始

● **1986年4月** 産業用アルミフレーム「アルファフレーム」を開発

● **1971年5月** 富山県富山市にキュノ・トヤマセールスを設立し、搬送装置及び  
周辺装置の設計・製造を開始

<設立後>

<設立前>

● **1970年10月** クレト商会を(株)クレトに商号変更

● **1960年3月** 西川鑪製作所をクレト商会に商号変更

● **1927年4月** 鑪(やすり)の製造及び加工を事業目的として、富山県富山市に西川鑪製作所を設立



# 3つの事業部門



機械要素部品の生産から高度な装置製造・販売までの一貫体制

## 1. アルファフレーム部門



ボルトだけで構造体を組立てることができるフレキシブルなアルミ構造材  
「ALFA FRAME® SYSTEM」の製造販売

## 2. 装置部門

アルファフレームシステムを使用したFA装置、クリーンブース、構造物の製造販売



## 3. 商事部門

富山県を地盤とした  
地域密着型工業生産財商社



# アルファフレーム部門(1)



■ 強度解析とアルミ押出し技術が生み出す品質

■ 総合システムとしての高い完成度 (ALFA FRAME® SYSTEM)



230種類を超えるアルミフレーム製品



## 【アルファフレームの特徴】

1. 環境にやさしいリサイクル性
2. 軽く強く美しいフレーム
3. 急な設計変更や増設に対応
4. 豊富な製品ラインナップ
5. 幅広い分野に対応

知的財産権：（平成18年3月31日現在）

特許権 34件 意匠権 70件

## 【スチール製構造部材との比較】 ※当社調べ

- スチール製構造部材(6つの加工工程) …… 設計+切断+溶接+機械加工+塗装+組立
- ALFA FRAME® SYSTEM(3つの加工工程) …… 設計+切断+組立



# アルファフレーム部門(2)



## ■ 専門CAD設計陣による 設計支援サービスで広範な用途を提供

### エレクトロニクス

DVD・携帯電話  
PDP・TFT液晶ディスプレイ



### 自動車

PL対応のマシンツール用  
パーテーション



### 半導体

超微細化半導体用  
クリーンブース



### 製薬・食品 箱詰ライン



### 公共施設・病院 メディカルワゴン



### 専用フレーム

公園などに設置する街灯のボディー  
直交ロボットのマインフレーム  
エアシリンダーのボディー  
コンベアフレーム、コンプレッサー部品

# 装置部門(1)



- 洗浄装置(FA装置) 部品製造工程において、切削切粉等の削りかすを除去

## ■ 当社独自の洗浄方式

標準カップ式洗浄機

ボックス式洗浄機



NEW

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

自動車分野をはじめ電子、電子部品、家電メーカーなど幅広い業種に納入

# 装置部門(2)



## ● 検査装置(FA装置)

部品製造工程において、寸法、重量、形状、機能等を検査



## ● 搬送・梱包装置(FA装置)

部品製造工程において、材料の供給、機械間搬送、完成品をストック



## ● アルミ構造物

機械のカバー、機械の付属設備等



# 装置部門(3)



- **クリーンブース** 電子、精密部品の製造工程等で、局所をクリーン化

## カスタムクリーンブース



## 標準クリーンブース

- ・ホームページから簡単見積もり
- ・各種レイアウトあわせた350種以上のバリエーション

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

電子部品、家電メーカー、精密機械分野など幅広い業種に納入

## ● 工場等の機械設備

- 切削加工等の工作機械、自動化・省力化に必要な搬送の機械装置等
- 自動車部品メーカーへの売上比率が高い



## ● 消耗品



工業用砥石



工具・ツール



油脂類

富山県内の地域密着型商社として、リピート受注が多く、安定した消耗品ビジネス

- 本資料は、当社に関する情報の提供を目的とし、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料に対するお問合せは、以下のIR担当窓口にてお願い申し上げます。  
＜エヌアイシ・オートテック株式会社 経営企画室＞  
TEL: 03-5530-8066      FAX: 03-3570-2381  
Mail: [ir@nic-inc.co.jp](mailto:ir@nic-inc.co.jp)      URL: <http://www.nic-inc.co.jp/>